

ふれあい畜産倶楽部 第16回

経営を圧迫する病気 その1 寄生虫症

(有)シェパード 獣医師 松本大策

いま僕は中国のチンタオで原稿を書いています。こちらは穏やかな気候ですが、僕の事務所(と家)のある鹿児島は、昨夜からまた台風に襲われているそうです。家族や農家さんのことがとても気になります。さて、先月は経営を圧迫する病気の概論でした。今月からは、それらの病気を一個ずつお話ししていきます。まずは、導入時の衛生対策の基本となる寄生虫症のお話からです。



乳頭糞線虫(成虫)

(MSD AGVET, 「Parasites of Cattle」)

寄生虫も大きく分けて体の中に寄生する内部寄生虫と呼ばれる仲間と、体の表面に寄生する外部寄生虫というものがいます。肥育経営で問題になる内部寄生虫は、肝蛭、オステルターグ胃虫、乳頭糞線虫、コクシジウムなどが代表的なものです。みなさんは寄生虫というと、一般にこれらの内部寄生虫のことを考えると思うのですが、皮膚や被毛に寄生するウシハジラミやウシホソジラミ、ショクヒヒゼンダニ、

皮膚内部に寄生する毛胞虫なども、牛さんにとってはかゆみなどの強いストレス源となって、増体や肉質に与える影響は無視できません。

オステルターグ胃虫 J.C.Williams 原図

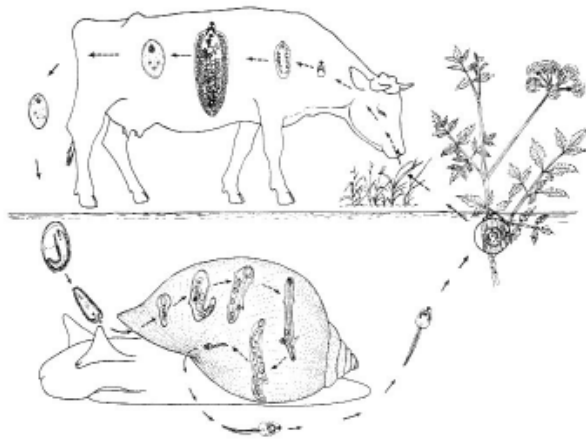


オステルターグ胃虫は、牛の口から体内に入り、第4胃に寄生します。第4胃というのは牛の4つの胃袋の中で、唯一消化液を出して酵素消化をする胃袋ですが、この虫は、第4胃のクリステという消化液を出す部分に寄生して胃酸の分泌を邪魔します。それでタンパク質の消化が邪魔されて増体が悪くなるのです。

乳頭糞線虫は、牛の小腸に寄生します。この虫は口だけでなく皮膚からも浸入するため人間も注意が必要です。牛舎には必ず長靴を履いて入りましょう。こちらの虫は、皮膚から入って腸に棲みつくまでに体中を回って肺に一時的に寄生して肺炎の原因にもなります。それから腸に棲みついて栄養の吸収を邪魔します。

肝蛭は、子虫の間ヒメモノアラガイという貝に寄生しています。貝からでると、稲などの





肝てつの発育環(板垣原図)

水辺の草にくっついて殻をかぶったサナギになります。牛さんは、このサナギをイナワラと一緒に食べることによって肝蛭を体内に入れてしまうのです。このサナギは乾燥などに強く、稲だったら収穫後、翌年の夏頃まで生きています。ですから、イナワラを与えるときは、収穫した翌年の夏過ぎまで寝かせた後で与えるといいでしょう。もしそれができな

いなら、肝蛭の駆虫も考えておいた方がよいかも知れません。ただ、最近は田んぼの農薬などの影響で、ヒメモノアラガイが少なくなっているのので、自分の与えているイナワラを作っている水田にこの貝がいるか、自分の牧場の牛に肝蛭の寄生があるか(ウンコの検査ですぐ判ります)を調べてみるとよいと思います。ちなみに輸入イナワラでしたら薫蒸消毒してありますから肝蛭の心配はありません。

シヨクヒヒゼンダニ、ウシホソジラミ、牛ハジラミなどがいると、牛さんはとてもかゆがり、敷き料を背中に掻き揚げたりします。このかゆみのストレスは肉色の悪化などの原因にもなります。

これらの寄生虫の対策ですが、導入時にきちんとイベルメクチン系の駆虫薬を背中にかけることで、オステルターグ胃虫、乳頭糞線虫などの線虫類と外部寄生虫は駆除できます。駆虫した後、1週間以内に敷き料を交換してやると、寄生虫の生活環を断つことができますから、寄生虫の駆除対策には効果的です。ただし、一回の駆虫ですべて駆除できない場合もありますから、1～2ヶ月後に見て、被毛が粗剛だったり毛づやがない場合や増体がない場合には、再度駆虫してあげましょう。

また、線虫の駆除を実施するとコクシジウムが爆発的に増えることがあります。導入時の駆虫の際は、必ずサルファ剤によるコクシジウムの駆除も平行して実施すべきです。

肝蛭は、前に述べたように、新ワラを与えている場合や検査で肝蛭の寄生がある場合には、やはり導入時に肝蛭の子虫から親虫まで駆除できる薬剤(ファシネックス)を用いて駆虫します。この薬剤は、投与量を間違えると発熱や下痢をすることがありますから、正確に与えましょう。

ウシに寄生する寄生虫では、他にサナダムシみたいな条虫というものがいますが、ほとんど牛には悪さをしませんから、あまり積極的な駆虫はしません。

